

平成18年度

帯広市

文化賞
文化奨励賞

帯広市教育委員会

帯広市文化賞受賞者

とき た のり お
時 田 則 雄

(60歳)

《受賞理由》

氏は、農業に専念する傍ら、精力的に短歌の創作活動を行い、昭和55年には、斯界の最高峰のひとつといわれる角川短歌賞を受賞され、その翌年の昭和56年に帯広市文化奨励賞を受賞されております。

その後も旺盛に活動を続けられ、昭和56年の歌集「北方論」をはじめ、随筆集等を多数刊行されるとともに、平成4年からは月刊短歌誌「辛夷」の編集発行人を務められております。

また、雑誌「家の光」「詩・歌・句」選者、「北海道新聞日曜文芸」「いのちを育む大地へのうた－短歌賞－」選者や、「中城ふみ子賞」「北海道新聞短歌賞」をはじめとした各賞の選考委員を務められております。

さらには、短歌の普及活動にも積極的に取り組まれ、帯広大谷短期大学や北海道農業大学校で非常勤講師として教鞭を執られるとともに、市民大学講座をはじめとした講座の講師として、講演の回数は数百回に及び、帯広・十勝のみならず、全国の歌壇発展に大きく貢献されております。

このような氏の永年にわたる活動は、地域文化の向上発展に大きく寄与するものであることから、帯広市文化賞を贈り顕彰するものであります。



〈略 歴〉

- 昭和39年 辛夷社会員
- 昭和42年 帯広畜産大学別科（草地畜産専修）修了後就農
- 昭和55年 「一片の雲」で第26回角川短歌賞受賞
- 昭和56年 帯広市文化奨励賞受賞
歌集「北方論」を刊行
(平成18年11月までに歌集8冊、随筆集等3冊を刊行)
- 昭和57年 第26回現代歌人協会賞受賞
- 昭和61年 「凍土漂白」で第2回北海道新聞短歌賞受賞
- 平成4年 月刊短歌誌「辛夷」第501号から編集発行人となる
- 平成9年 特定非営利活動法人十勝文化会議十勝文化賞受賞
- 平成10年 帯広市産業経済功労者として表彰される
- 平成11年 「巴旦杏」で第35回短歌研究賞受賞